

9.1 環境報告書の評価



(株)トクヤマ 執行役員 CSR推進本部長
関 道子

■ 第三者有識者のコメント

(株)トクヤマは山口大学と2004年より包括的連携協力協定を結び、様々な分野で協力していくことで地域の発展に寄与したいと進めて参りました。弊社も中期経営計画で「地球温暖化防止への貢献」を掲げ、多くの課題にチャレンジしております。カーボンニュートラルな社会の実現のハードルは高く、お互い高い目標を掲げての挑戦が続くと思っておりますが、今後とも協力し合い、活動していきたいと思っております。このような関係の中、今回の第三者有識者に選んでいただいたことで、貴学の環境への取り組みを再認識いたしました。本報告書を拝読しての意見・感想等を述べさせていただきます。

1. 目標達成状況（3章、4章、5章）

- 各環境目標に対して、概ね順調に進んでいます。特に猛暑であったにもかかわらず、エネルギーや温室効果ガスの増加を抑制できたことは、環境対策を継続的に進めている成果が表れていると思われました。
- 「クールビズ・ウオームビズ」の通年化、「コスト縮減実行計画」の組織的な取組強化が徹底され、省エネ対策と政府の支援により、光熱水費の負担額が、前年度比約1億円の削減となっていることには驚きました。

2. 環境貢献技術の創出（6章）

- 「山口大学グリーン社会推進研究会」には、弊社のメンバーも参加させていただいておりますが、企業、自治体、産業支援機関、大学等からなる、法人会員16機関、個人会員236名のネットワークに広がり、地域におけるカーボンニュートラル実現への研究シーズと地域ニーズがマッチした「ご当地プロジェクト」の活動が活発に進められていることを改めて理解しました。その中のテーマがJSTの受託研究に採択される等、活動が大きくなっており、さらなる進展に期待します。
- 中高温微生物研究センター、環境DNA研究センター等を現地視察させていただきました。中高温微生物研究センターは、異なる知識や経験を有する研究者が集まる場の提供にもなっていて、知識の融合が図られていると感じました。微生物分野の新たなフロンティアとして、成果の発信を楽しみにしたいと思っております。環境DNA研究センターは、新しい生物調査技術に挑戦していて、生物多様性と関係してこれから着目される分野と感じました。今回の報告書では紹介されておりませんが、視察当日、他にも興味深い研究をいろいろお聞きし、今後の進展が楽しみです。

3. 前年度に比較して改善されている点

- 新たにTCFD対照表を加えることで、掲載内容がグローバルで求められている内容であることを再確認できました。（10章）
- 信頼性向上に繋げるため、各種取組（会議・部会等）の実施日や実施回数を明記されており、報告書全般の信頼性向上に繋げておられました。（報告書共通）

4. 外部からの評価

山口大学の環境意識の高まりは、表紙の環境対策スローガンの募集にも表れていて、これまでで最も多い730件の応募の中から選ばれたものでした。また喫緊の課題である気候変動に積極的に取り組まれていることは、イギリスの高等教育専門誌THE（Times Higher Education）が2024年6月12日に発表した「THE大学インパクトランキング2024」において、総合ランキングで401-600位（国内19位タイ）にランクインし、「SDGs13：気候変動」では、総合ランキングで101-200位（国内2位）という高い評価を受けられていることから伺えます。

5. 総括

山口大学「環境報告書2024」は、環境に関する基本理念と方針、環境目標を掲げ、環境最高管理責任者である谷澤学長のトップマネジメントのもと、大学の全構成員が環境マネジメント体制に従って環境配慮活動を行い、継続的に環境問題に取り組んでいることが伺える内容となっていました。また、大学本来の機能・役割である優秀な人材の輩出に加え、環境の観点における高いレベルでの研究活動は、これから訪れる環境に配慮した社会の創生に向けて、積極的に取り組もうとしている姿勢が伝わりました。

本報告書で報告されている取り組み等を積極的に推進していただき、持続可能な社会づくりに貢献されますことを期待しております。



図9-1 関CSR推進本部長と環境DNA研究センター赤松教授の研究に関する意見交換の様子



9.2 編集後記

■ 環境責任者のコメント

欧州連合の気候・気象監視機関「コペルニクス気候変動サービス」によると、過去1年間の平均気温は産業革命前の水準を1.5度を上回ったことが明らかになりました。また、気象庁の「気候変動監視レポート2023」では、社会・経済活動に影響を及ぼす気候変動に関して、日本と世界の大気、海洋等の観測及び監視結果に基づいた最新の情報をまとめた報告がされ、この中で「2023年7月後半から8月にかけての顕著な高温」や「2023年の日本近海の記録的な海面水温について」等の私たちの生活にも直結する温暖化の状況が公表されています。

昨今の世界各地で起きる気候変動は、遠い世界の出来事でなく身近なところでも影響は出ています。異常気象の影響による農業や漁業等の不調、気候災害による健康や住居への被害が拡大しています。人々の生活に直接的に影響する気候変動は、環境問題だけでなく、人権にも影響を及ぼす大きな問題へと拡大してきました。

このような情勢を踏まえ、本学では山口大学の「環境目標」に準じて各種取り組みを推進しています。この度は、これまでにないエネルギー価格高騰等への対策として「クールビズ・ウォームビズ」の通年化、「コスト縮減実行計画」に基づく取り組みを組織的に強化することで、エネルギー消費量の削減や温室効果ガス排出量の削減に努めました。さらに、研究面では、グリーン社会推進研究会による地域ネットワークの構築を進めることで「ご当地プロジェクト」が始動することとなりました。ここで生み出す革新的な技術、新しいグリーン社会システムにてより一層の活動を進めてまいります。

なお、環境報告書の評価では、第三者有識者として本学と地域連携協定関係にある「株式会社トクヤマ」様に依頼しました。同機関においては、次世代エネルギーへの転換、技術研究開発、産業インフラの再構築等について、産業競争力の維持・強化と脱炭素の両立を図ることに挑戦されています。本学では、社会の課題に挑戦し未来を開拓するパートナーとして、信頼関係を築いていきたいと思っております。

大学では、皆様ご存じのとおり「教育・研究」が主な業務です。これは、国連が掲げる持続可能な開発目標「SDGs」にもゴールとして掲げられ、他のゴールに深く関連する重要な課題として認識しています。本学の「教育・研究」活動は、SDGsと関連付けることで、地域との連携を促進し、大学構成員一人ひとりが社会の共通課題へ積極的に取り組み、「気候変動」への対策に努めてまいりたいと思っておりますので、皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。



国立大学法人 山口大学
環境責任者
財務・施設担当副学長
溝部 康雄